

## 2019年後期 DP 到達度アンケートの概要

### 1. 概要 経年変化ではなく、異学年を比較しています。 ※1.05倍以上を緑、0.95倍以下を朱に。

<アンケート項目 すべて4件法で回答>

①目標設定 ②挨拶 ③清掃 ④頭髮 ⑤協働性 ⑥能動的学修 ⑦プレゼンテーション ⑧ICT活用力  
⑨異文化理解 ⑩1日の学修時間 ⑪これまでの人生での学修 ⑫施設満足度 ⑬生活満足度 ⑭要望

	N	目標	挨拶	清掃	頭髮	協働	文章	能動	プレゼン	ICT	異文化	時間①	時間②	施設	生活
2019_1	647	3.07	3.02	3.04	3.62	3.25	3.03	3.09	2.85	2.75	3.14	1.95	2.38	2.45	2.83
2018_1	529	3.17	3.24	3.19	3.79	3.30	3.11	3.12	2.77	2.67	3.05	1.63	2.28	2.39	3.07
倍率	1.22	0.97	0.93	0.95	0.96	0.98	0.97	0.99	1.03	1.03	1.03	1.20	1.05	1.02	0.92
2019_2	531	3.00	2.99	2.99	3.64	3.22	2.97	3.06	2.85	2.65	3.17	1.97	2.47	2.19	2.72
2018_2	520	3.19	3.28	3.18	3.64	3.33	3.09	3.13	2.73	2.61	3.10	1.73	2.26	2.19	2.84
倍率	1.02	0.94	0.91	0.94	1.00	0.97	0.96	0.98	1.04	1.01	1.02	1.14	1.09	1.00	0.96
2019_3	444	3.28	2.99	2.98	3.62	3.32	3.08	3.18	2.82	2.65	3.19	2.69	2.91	2.27	2.80
2018_3	444	3.33	3.24	3.08	3.71	3.37	3.16	3.20	2.60	2.54	2.89	2.46	2.89	2.40	3.03
倍率	1.00	0.98	0.92	0.96	0.98	0.98	0.98	1.00	1.08	1.05	1.11	1.09	1.01	0.94	0.92
2019_BC	381	2.98	2.98	3.01	3.58	3.13	2.98	2.99	2.88	2.72	3.19	2.51	2.64	2.38	2.73
2018_BC	313	3.11	3.32	3.20	3.59	3.23	2.97	3.03	2.86	2.79	3.19	2.25	2.63	2.45	2.92
倍率	1.22	0.96	0.90	0.94	1.00	0.97	1.00	0.99	1.01	0.98	1.00	1.12	1.00	0.97	0.94
2019_FC	145	3.18	2.94	2.99	3.79	3.25	3.04	3.06	2.79	2.55	3.08	1.65	2.39	2.28	2.81
2018_FC	142	3.08	3.06	3.01	3.58	3.17	3.18	3.04	2.46	2.30	2.94	1.54	2.27	2.23	3.04
倍率	1.02	1.03	0.96	0.99	1.06	1.03	0.96	1.01	1.13	1.11	1.05	1.07	1.05	1.03	0.92
2019_FE	307	3.18	3.01	2.94	3.64	3.35	3.12	3.22	2.97	2.78	3.22	2.25	2.48	2.27	2.79
2018_FE	295	3.32	3.25	3.02	3.76	3.48	3.22	3.25	2.73	2.61	3.17	2.05	2.60	2.14	2.95
倍率	1.04	0.96	0.93	0.98	0.97	0.96	0.97	0.99	1.09	1.07	1.02	1.10	0.96	1.06	0.95
2019_PH	150	3.02	2.81	2.77	3.55	3.19	2.88	3.04	2.57	2.55	2.97	2.17	3.37	2.20	2.73
2018_PH	155	3.20	3.09	3.08	3.75	3.35	3.17	3.14	2.65	2.58	2.81	2.26	3.38	2.38	2.97
倍率	0.97	0.94	0.91	0.90	0.95	0.95	0.91	0.97	0.97	0.99	1.06	0.96	1.00	0.92	0.92
2019_PP	639	3.14	3.07	3.09	3.63	3.31	3.03	3.15	2.82	2.69	3.17	2.01	2.37	2.33	2.82
2018_PP	586	3.28	3.31	3.26	3.78	3.34	3.11	3.18	2.69	2.60	2.93	1.66	2.09	2.36	3.01
倍率	1.09	0.96	0.93	0.95	0.96	0.99	0.97	0.99	1.05	1.04	1.08	1.21	1.13	0.99	0.94

#### (1)改善が図られた点

##### 回答者数、プレゼンテーション、ICT活用力、異文化理解、学修時間

※学年別の成果は弱く、相変わらず「3年中心」となっているが、学科別では、学科の特色に応じた教育改善の成果が出つつある。とりわけ、学修時間の伸びについては、1年間にわたる学科FD会議、初年次におけるPC必携化、アカデミックスキルの開発の影響が出ているものと考えられる。異文化理解(3年、PH、PP)が上昇した原因については、詳細な分析が必要である。

#### (2)改善を図るべき点

##### 学内ルール、施設満足度、生活満足度

※本学の特色(挨拶・頭髮・清掃)が弱まりつつある。2年次は「中だるみ」、健康科学科はキャンパス移転の影響が考えられる。施設・生活満足度については、要望コメントの分析に加え、2019年度にオープンした新校舎(ディスカバリー、インスパイア、ユニビレッジ)の効果がどの程度まで共有されているか、詳細な分析が必要である。

## 2. 要望コメント発信率 ※20%以上（5人に1人の割合）を網掛け

	BC	FC	FE	PH	PP	Total
1	18.6%	11.9%	11.2%	10.9%	15.2%	14.5%
2	20.3%	29.8%	24.3%	18.2%	22.1%	22.4%
3	12.2%	16.1%	26.8%	14.3%	19.9%	18.9%
Total	17.6%	18.6%	20.5%	14.0%	18.6%	18.3%

発信数/回答数

### <傾向>

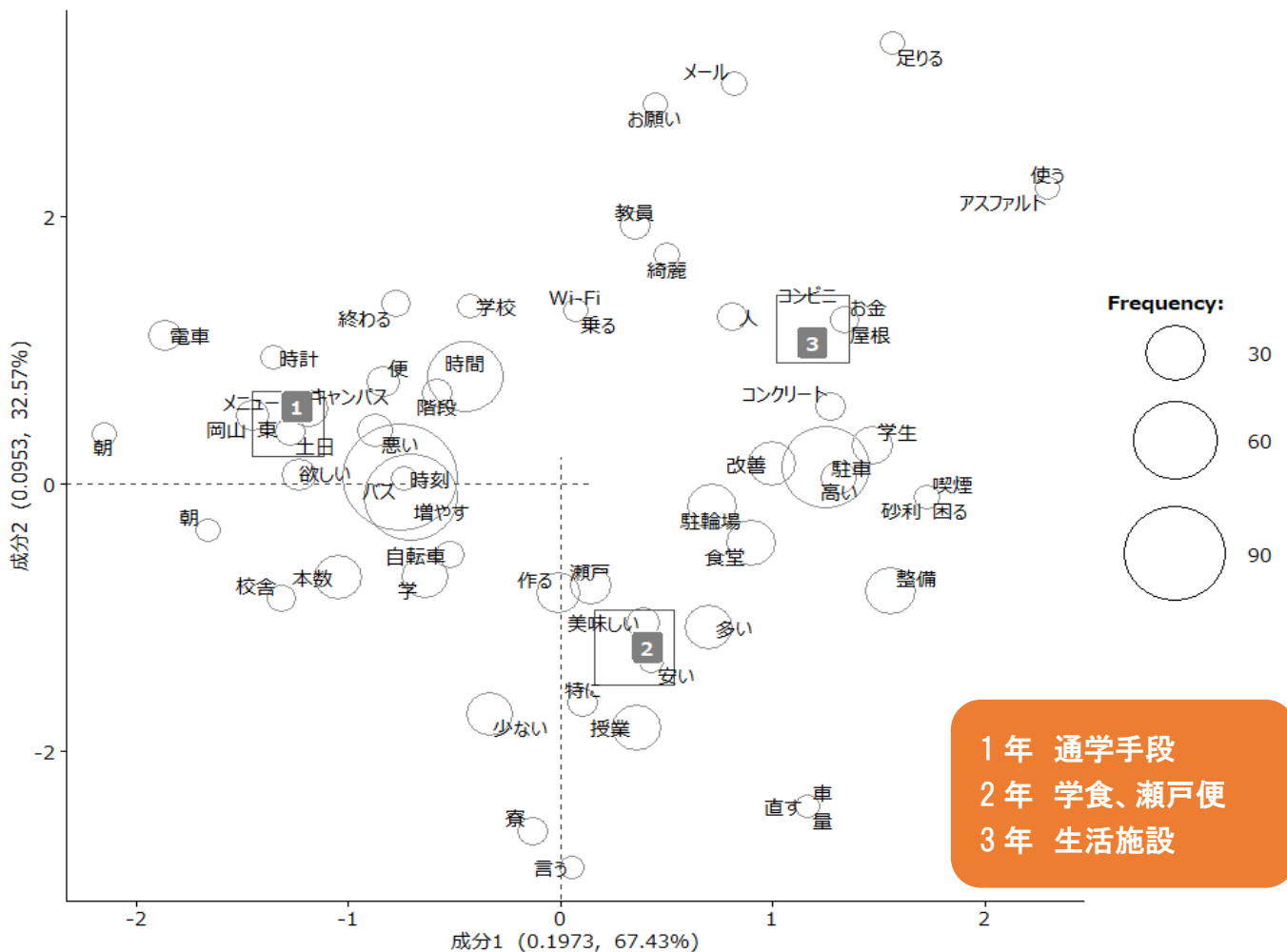
・1年生は比較的要望が少なく、2年生で一挙に要望が増え、3年生で減るものの、1年生のレベルに戻るわけではない。また、教員免許取得に関係する学科からの要望が多くなっている。

### <高頻度語と使用例>

- |           |                |           |                   |
|-----------|----------------|-----------|-------------------|
| ①バス (115) | バスの便数、バスの時間帯   | ②増やす (85) | バスの本数、食堂のメニュー     |
| ③駐車 (66)  | 駐車場の整備、料金、スペース | ④時間 (50)  | バスの時間、電車の時間との接続   |
| ⑤整備 (22)  | 駐車場、駐輪場        | ⑥授業 (21)  | 免許取得のための時間割、面白い授業 |
| ⑦食堂 (20)  | 食堂のメニュー、食事の量   | ⑧駐輪場 (20) | 駅ごとのスペース、駐輪場の屋根   |

※改善すべき点は明確であるが、同時に、この数年かけて改善してきた点、また、物理的な要因で改善が困難な点が理解されていない。改善を進めると同時に、学生に理解を促す努力も必要である。

### <学年別対応分析>

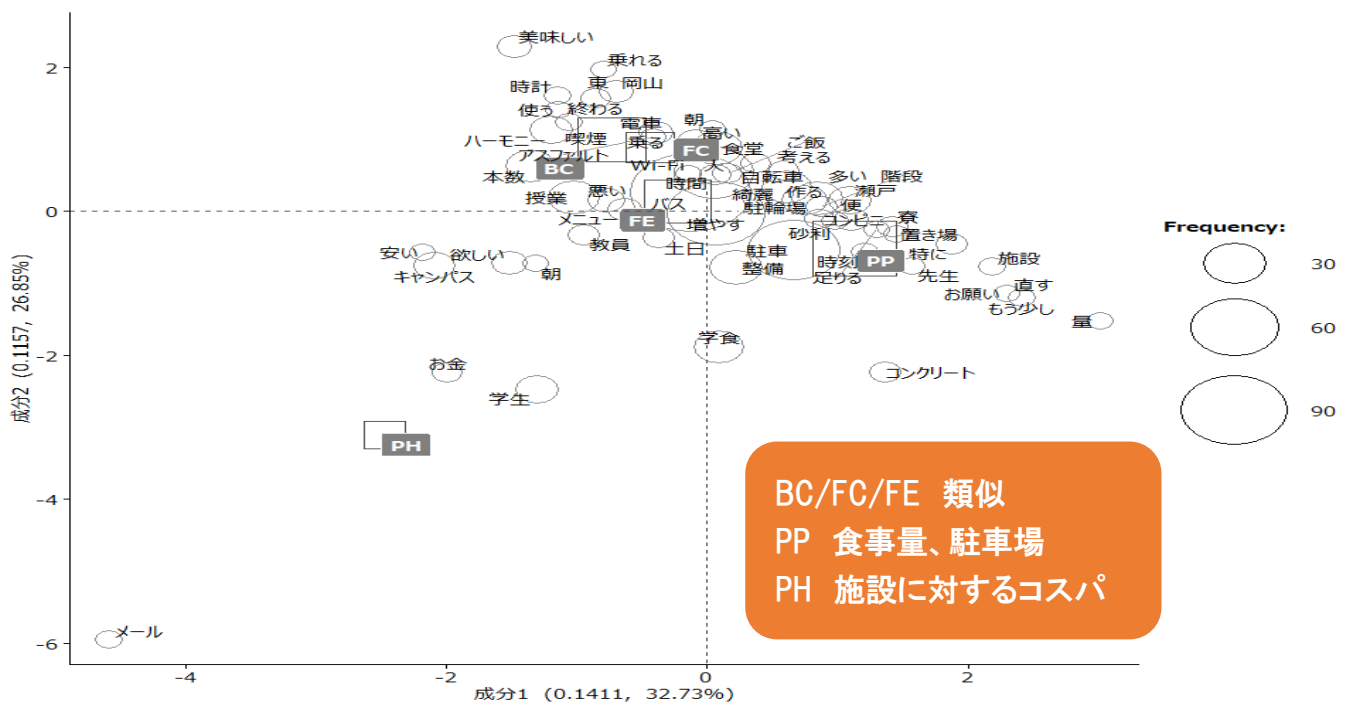


### <学年別考察>

- ・1年生は、学修への入り口として、最寄り駅からのバス通学への意識が高くなっている。
- ・2年生の意識は、通学の利便性から生活環境に、特に、寮や学食へと向けられている。
- ・3年生については、自動車通学の割合の増加に伴い、駐車スペースや料金設定に関心が向けられている。

※学年進行に伴って関心の対象が変化するが、今後も、「通学ストレスの緩和」と「コストパフォーマンスの観点からの生活環境の整備」について改善を図ることが重要である。

### <学科別>



### <学科別考察>

- ・対応分析では共通の性質が原点付近に集まるため、現代経営、こども発達、教育経営は類似している。
  - ・飛び地的に布置された体育学科の特徴語の中に、「施設」、(メニューの)「量」、「コンクリート」等が含まれている。今後、体育施設の維持・管理に関する定期的な点検が必要である。
  - ・同じく飛び地的に布置された健康科学科の特徴語の中に、「お金」、「学生」、「メール」が含まれている。学科の特質上、学費を含めた生活費がかさむことへの不満、学内で発信される情報の大半が他学科（とりわけ教職課程）に関するもので占められていることへの不満が示されている。
- ※体育学科と健康科学科を直線で結ぶと、その中央に「学食」が位置付けられる。アスリートの「食」へのニーズに応じたメニュー開発が必要である。

## 3. まとめ

- ①2019年度、学科FDを中心とした授業改善の成果が示された。特に、学修時間の伸びは顕著であり、「勉強しない日本の大学生」とは一線を画したレベルに達している。2020年度は全学共通科目(語学、実技、汎用的能力)を通して、1,2年の改善、および、「量から質への転換」を図りたい。
- ②学内ルールの徹底、生活環境の整備が急務であるが、同時に、教職員間におけるルールの徹底、学生への改善報告が重要な課題である。